



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月12日

上場会社名 シルバーエッグ・テクノロジー株式会社 上場取引所 東
コード番号 3961 URL <https://www.silveregg.co.jp/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）トーマス・アクイナス・フォーリー
問合せ先責任者 （役職名）取締役 （氏名）フォーリー 淳子 TEL 06 (6386) 1931
半期報告書提出予定日 2025年8月12日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2025年12月期中間期	540	△13.8	△10	—	△9	—	△9	—
2024年12月期中間期	627	△1.8	57	△5.3	57	△4.3	36	△7.0

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	△3.13	—
2024年12月期中間期	12.38	12.36

（注）2025年12月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であり、また、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2025年12月期中間期	1,484	1,415	94.6
2024年12月期	1,521	1,420	92.9

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 1,403百万円 2024年12月期 1,413百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—	0.00	—	—	—
2025年12月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	1,176	△4.3	△30	—	△30	—	△24	—	△8.30

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期中間期	2,976,942株	2024年12月期	2,976,942株
② 期末自己株式数	2025年12月期中間期	85株	2024年12月期	85株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年12月期中間期	2,976,857株	2024年12月期中間期	2,966,872株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算補足説明資料の入手方法）

TDnetで同日開示するとともに、当社ホームページに公開する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7

1. 当中間決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当中間会計期間における日本経済は、雇用・所得環境の改善などを背景に景気は緩やかな回復が続き、個人消費には持ち直しの動きがみられる一方で、米国の政策動向による景気後退リスクなどにより、先行きは不透明な状況が続くものと思われます。このような状況の中、情報通信分野の技術政策では、生成AIをはじめとするデジタルテクノロジーが、私たちの社会や経済をさらに進化させる原動力となると期待されています。

当社は2025年3月に5カ年の中期経営計画を発表し、「データとAIの融合で業界を変革するAIマッチングソリューションのリーディングカンパニー」となることを長期ビジョンとして掲げました。これは、AIの急速な進化によって高まるデータとAIの融合ニーズに対応し、将来の多様なデジタルサービスを支える不可欠な存在を目指すものです。

この長期ビジョン実現に向け、既存事業の深化・拡張に加え、新規事業の創出・拡大を通じて事業基盤を再構築し、さらなる発展を図ります。急速に変化する経営環境に対し、当社は事業環境や顧客ニーズの変化に柔軟に対応することで、引き続き強い競争力を発揮できると考えております。

2025年度は「AIマッチングソリューション基盤の拡張」を主要な経営方針として掲げており、当中間会計期間の取り組みは以下のとおりです。

販売戦略の一環としてパートナー連携を強化、デジタルマーケティング領域でのサービス提供を拡大しています。2025年2月のトライベック株式会社とのOEM提携に引き続き、6月にはCMS領域における広範な顧客ニーズに対応するため、高機能なCMS製品を持つハートコア株式会社とOEM提携を締結しました。これらの連携を通じて、当社がこれまで培ってきたデジタルマーケティングの知見を活かし、ウェブサイトの設計・構築段階からパーソナライゼーション技術とサービスを提供いたします。ユーザーとの「出会いの瞬間」から体験を最適化することで、より広範なデジタル接点に応える個別最適化を実現し、企業は顧客体験の質とマーケティング成果を両立させることができます。当社にとっても、こうした上流工程への技術展開は、パーソナライゼーションの価値をさらに高め、新たな市場機会の創出、競争優位性の強化につながる重要な一歩となります。

新領域事業においては、2025年8月に大規模言語モデル（LLM）を活用した人材発掘AIエージェントサービス「RecoTalent」の正式リリースを予定しています。当社の生成AIによる知見を活用したこのサービスは、採用における最適なマッチングを圧倒的なスピードと高い精度で実現し、既存の採用プロセスの変革をもたらすとともに、当社の中長期的な企業価値向上に資するものと確信しております。

当中間会計期間の営業収益につきましては540,329千円（前年同期比13.8%減）、営業損失は10,294千円（前年同期は営業利益57,426千円）、経常損失は9,779千円（前年同期は経常利益57,728千円）、中間純損失は9,325千円（前年同期は中間純利益36,728千円）となりました。

なお、当社は、レコメンドサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載を行っておりません。

（2）財政状態に関する説明

①財政状態

（資産）

当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ37,203千円減少し、1,484,322千円となりました。主な内訳は、売掛金の減少32,818千円があったこと等によるものであります。

（負債）

当中間会計期間末の負債は、前事業年度末に比べ32,556千円減少し、68,729千円となりました。主な内訳は、未払金の減少25,155千円及び未払法人税等の減少11,865千円があったこと等によるものであります。

（純資産）

当中間会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ4,646千円減少し、1,415,592千円となりました。これは新株予約権の増加4,678千円があった一方で、中間純損失の計上による利益剰余金の減少9,325千円があったことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、1,194,052千円となりました。当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間における営業活動の結果、得られた資金は、4,210千円（前年同期に得られた資金は56,702千円）となりました。主な内訳は、税引前中間純損失の計上額9,779千円、未払金の減少額25,155千円及び法人税等の支払額11,054千円があった一方で、減価償却費の計上額13,078千円及び売上債権の減少額32,818千円があったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間における投資活動の結果、得られた資金は、10,410千円（前年同期に支出した資金は14,568千円）となりました。主な内訳は、資産除去債務の履行による支出3,670千円があった一方で、差入保証金の回収による収入14,848千円があったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間会計期間における財務活動による資金の増減はありません（前年同期に支出した資金は59千円）。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年2月14日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

（1）中間貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,179,431	1,194,052
売掛金	180,289	147,471
前払費用	42,337	49,866
その他	—	851
貸倒引当金	△189	△160
流動資産合計	1,401,869	1,392,080
固定資産		
有形固定資産	21,721	21,315
無形固定資産	35,969	24,065
投資その他の資産	61,965	46,860
固定資産合計	119,656	92,241
資産合計	1,521,525	1,484,322
負債の部		
流動負債		
未払金	62,516	37,361
未払費用	7,002	5,636
未払法人税等	15,945	4,080
未払消費税等	4,987	11,821
資産除去債務	3,670	—
その他	7,165	9,831
流動負債合計	101,286	68,729
負債合計	101,286	68,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	287,772	287,772
資本剰余金	272,535	272,535
利益剰余金	853,107	843,782
自己株式	△193	△193
株主資本合計	1,413,221	1,403,896
新株予約権	7,017	11,696
純資産合計	1,420,239	1,415,592
負債純資産合計	1,521,525	1,484,322

（2）中間損益計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年6月30日）	当中間会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
営業収益	627,121	540,329
営業費用	569,694	550,624
営業利益又は営業損失（△）	57,426	△10,294
営業外収益		
受取利息	3	493
講演料等収入	100	—
還付加算金	207	—
その他	31	22
営業外収益合計	341	515
営業外費用		
為替差損	39	0
営業外費用合計	39	0
経常利益又は経常損失（△）	57,728	△9,779
税引前中間純利益又は税引前中間純損失（△）	57,728	△9,779
法人税、住民税及び事業税	9,408	430
法人税等調整額	11,590	△884
法人税等合計	20,999	△454
中間純利益又は中間純損失（△）	36,728	△9,325

（3）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年6月30日）	当中間会計期間 （自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失（△）	57,728	△9,779
減価償却費	13,888	13,078
株式報酬費用	2,339	4,678
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△293	△28
賞与引当金の増減額（△は減少）	△8,516	—
受取利息及び受取配当金	△3	△493
売上債権の増減額（△は増加）	△3,991	32,818
前払費用の増減額（△は増加）	4,333	△7,529
未払金の増減額（△は減少）	△40,079	△25,155
未払費用の増減額（△は減少）	△204	△1,365
未払消費税等の増減額（△は減少）	△3,690	6,833
その他	△1,034	1,713
小計	20,475	14,771
利息及び配当金の受取額	3	493
法人税等の還付額	36,989	—
法人税等の支払額	△765	△11,054
営業活動によるキャッシュ・フロー	56,702	4,210
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△768
差入保証金の回収による収入	—	14,848
差入保証金の差入による支出	△14,568	—
資産除去債務の履行による支出	—	△3,670
投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,568	10,410
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△59	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59	—
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	42,074	14,620
現金及び現金同等物の期首残高	1,096,784	1,179,431
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,138,858	1,194,052

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社は、レコメンデーションサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。